五月二十六日夕刊

常磐新聞

發行兼編輯印刷人　伊藤陸次
發行所　常磐新聞社
福島縣小名濱町古港一
日曜祭日ノ翌日休刊
一部二錢　一ヶ月三十錢
廣告料一行五十錢

運賃値下問題

常磐炭界

黑ダイヤ景氣に拍車

明朗化へ第一歩

衆議院建議委員會通過

常磐石炭の運賃引下げ問題は數年來議會に建議されてゐるが今年も比佐、鈴木兩代議士から提案された、而して同建議案はさる十九日衆議院建議委員會に於て審議されたが同席上に於て比佐昌平氏は

本案は毎年議會に建議され可決を見てゐるが未だ實現の運びに至らざるは誠に遺憾である、御承知の如く常磐炭の運賃は九州方面から輸送されるものに比し非常に高く從つて炭價の高騰を餘儀なくされ又常磐炭の最得意先たる製糸家が使用する粉炭の如きも之が爲め高價になり困り拔へてゐる、何とかして値下げを實施せらるゝやう努力せられたい

之れに對し鐵道省新井運輸局長から

常磐炭の輸送運賃が他の石炭運賃に比し高いのは誠にお氣の毒であるがいろ〳〵止むを得ない事情もあり、又鐵道省としても此の問題については永らく研究中であるが他の石炭との振合上引下げが困難である、併し近く小名濱から海路輸送も出來る様になるし鐵道省としても常磐炭の運賃改正に就ては何とかしなければならないと考へるから何等かの良い方法を見つけ實施させたいと思ふ

と云ふ一脈の望みのある答辯を得たので之を滿場に諮り本建議案は異議なく可決された

皇國の興廢此の一戰

海軍記念日の催し

講演と自轉車强行軍

植田小學校青年校で

植田小學校では來る廿七日海軍記念日をトし午前八時より全校生徒に往時の大海戰を想起せしむるため講演がある終つて非常局に處する小國民の覺悟を一層深める意味で岩間海岸へ强行軍を行ふ、其に當日植田町青年學校全校生徒に對し陣中勤務の指導及び地圖の應用に就て實際的教育をなす事となり午前五時半校庭出發午後五時半歸校の豫定で自轉車行事をなすが經路及行程は次の通りである

經路は植田、湯本、綴、平、沼ノ内、江名、小名濱、瀧尻、下川、小濱を一巡し行程は五十粁である

中堅研究會

石城中堅農民現地講習研究會は來る二十九日渡邊村地内で郡農會主催柴田技師指導のもとに開く。

北川外科
平町新川町
醫學博士　北川芳夫
電話四六四番

常磐新聞

四倉支局開設ヲ祝ス。

躍進途上の四倉町は太平洋の開拓を以て發展上唯一の資源とし是れに向つて全力を傾注しつゝある事は小名濱町と何等異なる所あらざるなり、故に小名濱町を根據として永き歴史を有し大なる功績を治めつゝある常磐新聞の支局を當町に開設せられたる菊地君の勞を多とし茲に一書を呈し祝辭に代ふ。

遠近に其名を知られたる四倉町海水浴場は其背景として日本百景の新舞子あり北に波立藥師、西に玉山、白岩兩鑛泉浴場、藥王寺の國寶、大浦上仁井田に祐天上人の靈地長友に地藏尊の國資あり其他天然の風景明美の所能く散客を滿悅せしむる以て大衆的遊園地として歡迎されるが、故に當海水浴場は常磐線唯一の稱と共に躍進的發達しつゝあり更に當町に於ける産業政策は主として水産漁業を以て第一とし既に工費四十四万圓を投じ殆んと完成されたる漁港は其施工の成績縣下に冠たり故に近來漁船の激増廻船の頻繁等に依り既に港内の狹隘を來し自然的第二期工事の必要を生じ町當局は猛烈なる運動を其筋に開始されつゝあり又陸上設備として産業、衞生、火防の自然的慾求を來した上水道の布設も諸般の準備促進し其實現も年内にある又漁港に添ふたる地域を數十萬坪埋立し是れ亦完成して此彼を問はず資本家經營者を歡迎しつゝある更に漁港埋立地を通じて三ケ年に亘る施工の産業道路は本年三月完通して數十町歩の砂漠地を水産加工場化し産業者に大なる便益を與ひ、尚ほ前途洋々たる敷地を開發す等海陸共に急激なる發展は大商港の大小名濱を凌駕せんとする飛躍的躍進途上の四倉町にふさわしき常磐新聞は當町と趣きを同ふする小名濱町に於て十數年間産業風俗に對し新聞界稀れに見る功績を現し小名濱町民に絶大なる歡迎と信望を有せる貴紙を以て四倉町支局を設置し毎夕吾人の指導機關として現參さるる事は幾多散在せる大小新聞を凌駕し當町産業上に甚大なる貢獻あらん事を期待し茲に支局開設を祝し前途益々隆盛ならん事を祈る。

四倉町民
匿名生

村社八幡神社

屋根フキ替に着工

總工費一千六百圓也

世話人總代寄附募集奔走

昨年帝都より專門家を招聘して植田町村社八幡神社の屋根葺替に對し設計させた其の結果工費一千三百圓を以て工事に着手する筈であつたが種々な都合に依り操延べられて居たが此程世話人總代及町内各有志家の寄附を仰ぎ着工今秋までに完成さすべく奔走中である替工事は今迄の木羽葺を銅をして改葺する事となり材料原價の高騰に依り總工費一千五六百圓を要する事とならうが新裝を施して完成の曉は盛大な遷宮式を執行するとは七月十五日の由。

鷄聲一番

人生修養のため

公德週間座談會

四倉鷄聲會主催で

四倉町鷄聲會では昨廿五日小學校講堂に於て午後七時より公德問題に關する座談會を開き出席者多數に上つた鷄聲會長青木公丸氏、細目東雲氏、和田民三氏、四倉驛長、舘彌三郎氏、四倉町長新妻盛氏、小學校長菊池正一氏、醫師木村守江氏齒科醫師菅波勇氏外各會員諸士及有志連にて今後學校及鷄聲會と共同的公共普及のためポスター及圖案標語を各町各戸に配布する事を申合せ原コウを作製し盛會裡に散會した

鰯漁がトギレて

淋しい小名濱港

鎭守大祭を目前に控へて

鰮の大漁續きで船主の懐は膨れて居ても、玆數日間一寸閑散の場面を見せた丈けで濱一帶は無風情で淋しい限りである、五月廿八日（舊四月八日）は小名濱諏訪神社の大祭であるが御祭り前の不漁には少しく焦燥の氣色も見える、見ようでは御祭氣分で綏々休めるとも言へるから大漁なれば不休で活動する不漁なれば天が休養の時間を貸したのだと大いに御祭氣分を滿喫すべきであらう

上水道檢査

湯本町上水道の出納一齊檢査は昨廿五日より縣丹野主事豬又技師のもとに三日間開始された。

上水道問題

四倉町會議員

廿五日招集さる

四倉町役場では昨廿五日午前より町會議員を役場議事室に招集して上水道問題の經過報告をなした

オリンピック委員

松野尾繁雄氏

蘇聯邦經由出發

旅券交付さる

文部省勝健會囑託次回オリンピック誘致委員平町才槌小路二四法學士辯護士松野尾繁雄氏はソヴエツト聯邦を經由ドイツ外十九ケ國を視察する爲縣に旅券交付方を申請中であつたが二十五日付を以て交付された出發

日本で唯一人の

砂防技師

赤木林學博士

管内視察調査

內務省囑託林學博士赤木砂防技師は縣下各地の河川上流の砂防工事を實施すべき個所を視察調査中であつたが平土木所管内は昨廿五日御山田、藤原川上流白鳥川の現狀を視察今廿六日は宮炭礦周圍の砂防すべき個所を調査後直ちに宮城縣に向ふ筈。

報知支局異動

報知新聞平支局長岡田宗治氏は今度郡山支局詰に榮轉近く赴任することに決定後任は盛岡支局高橋壽雄氏が着任する。

懲役二年

過般植田署より送局した詐欺橫領犯人岩手縣生れ中野春壽に關する事件は去る十九日平署に開廷懲役二年の判決を受けた

海軍記念日に

体操演習會

小名濱小學校並に同實業補習學校では明廿七日の海軍記念日をトし午前九時より同校々庭で体操演習會を催し午後二時より裁縫室で批評會を開く

高木佐一郎著

女に賭ける

白熱的大好評

高木小名濱町助役令弟高木佐一郎著『女に賭ける』は大好評で高木助役へ申込數既に五百を算し、平方面よりの註文も續々來ると云ふから優に一千冊位は賣行く事だらうと鄕土の產んだ文士として白熱的歡迎されて居る

今様お染久松

大酒豪の女道樂

情夫と夫婦氣取り

昔は大家の奧様で

今は遊女にまさる尻輕さ

（投書）

石城郡江名町江樂館劇場で中働をして居た山形縣生れ五十嵐キイ(四五)と夫伊藤某（特に亭主の名を匿す）は廿二十二年間夫婦關係を結び湯本町にて過る年まで大きく商賣をして居つたがキイは生れ付きの大酒家で斗酒を傾けるやら男の袂を引くやら道樂の限りを盡した結果商賣に失敗流れ〳〵て現住所に來て夫婦別れ〳〵で働いて居たが先天的の道樂者の事とて旅役者や○○と姦を通じ其の上同館に居た指物大工さん吉田某と手に手を引き合い亭主や子供等を置き去りにして出奔此頃小名濱町に夫婦氣取りで居るとの事であるが實に稀に見る姦婦であり、賣女である、（原文の儘）

四倉町の祭禮

賑ふ夏姿

來る舊四月八日は四倉町及各村の祭禮にて各神社の神興渡御すると共に各字の青年團及老年連中の屋臺や美妓の手踊りで今日より各準備で町村はお祭り景氣で賑やかである

運轉士講習會終了

更に第二の難關へ

來月一日船舶職員試驗

小名濱水試分場で擧行

福島水産會主催沿岸丙種運轉士養成講習會は既報の如く今廿六日を以て終了、午後一時より小名濱水産試驗場にて竹内水産副會長臨席の下に修得者四十九名に對し講習修了證授與式を擧行した尚前記講習生に對する臨時船舶職員試驗は六月一日より九日まで十日間同試驗場で擧行されるが講習生の大部分が受驗する模樣で海の幸に肉迫する若人の意氣が如實に反映されてゐ

海軍記念日の催し

磐女競技會

磐城高女では延期してゐた陸上競技會を明後廿七日の海軍記念日をトして擧行す

エス様の逆を行く！

厭世自殺（未遂）の青年

人生に望みなし

遺書を殘して淋しく散る？

赤井村大字赤井村字比良三一岩吉長男丸三煉瓦會社職工木田衆久(三)は昨廿五日午前中仕事を休み隣家に遊びに行き午後一時頃胃腸藥と稱してアダリンを嚥下自

街の噂

二十四日の出來事、小名濱で今東郷の稱ある小川爲八郎兵曹長、軍艦木曾が入港したので小名濱海軍班長の職柄で色々と軍艦との連絡や世話をやいて居たが雨のこそ降る午前中軍艦より陸上に歸るべへ陸戰隊と共に内火艇に乘移らんとする刹那、如何なる調子かあわや海中に墜落と云ふ間一髪陸戰隊長外二名の決死的救援の爲め難を免れたが目擊者にアツと手に汗を握らかたと云ふから余程危險に瀕面を見せたに相違ない、あの謹嚴なる態度と大人物の抱擁力を兼備せる小川氏にして常に讀者各位にゴシップを提供するあたり、たしかに小名濱の一名物として町寶的永久の存在たらしめたい

誤正。 昨紙掲載の神精病者の奇禍云々の記事中午前五十五分四ツ倉發とあるは午前九時五十五分の誤りに付き訂正いたします

濱だより

小名濱魚市場調査

魚名	魚獲高	單價
平目	一五貫	二、五〇
タイ	十貫	四、〇〇
サバ	四〇貫	五、五〇
タナゴ	二〇貫	一、〇〇
タコ	一〇〇貫	、四〇

評判のお多福へ
散歩歸りには移轉擴張した酒場お多福の
しんみりしたお座敷へ是非!!!
新味特製の花見折詰　すし・・・ちらし・・・みつ豆
季節向き江戸前御料理仕出し
『出前迅速』安くておいしい
女中入用
江戸前御料理　酒場　お多福
小名濱町吉田屋別館通り

内科、小兒科、婦人科、花病科
久保田醫院
小名濱町
電話二二番

口腔外科
齒科一般
植田町本町通り
森合齒科醫院
院長　森合芳男
電話植田七十一番

特報

出漁鰹漁船無電放送漁況

本縣船沖合漁況（廿六日）

船名	漁場	水温	漁獲物	記事
盛厚丸				
清勝丸	野島沖三七五浬	十九度二分		
福田丸	仝三七〇浬	一七度五分		
榮福丸	仝三四五浬			
明方丸				
萬勢丸	何れも漁なし			

沖合一般漁況

最多獲船	平吉丸	スミス島	廿一度	一萬一千尾
最小獲船	辨天丸	黑瀬島	廿二度五分	千七百尾

溫泉復活事業と町紛爭の實体

(四)

小野英哲

先きに土地問題で惡感情を持つた愛湯會の幹部は勢い比佐氏に反對的立場を明かにしたのであつた。わけても區會議員の大半は事態溫泉事業が區の事業である關係から反比佐的態度を明かにしたのである。そして一、二の議員は此の土地問題による比佐氏の態度を壇上より陰に陽に攻擊したのであつた。

そして選擧中比佐氏の不利な狀勢のデマが亂れ飛んだのである。しかし湯本町に在つては世上デマの如く町民は比佐氏の支持を捨てたものでもなく、むしろより強固に支持し、一部議員の反比例的行動を批難して居つたのであつた。その批難の聲が大半の議員が比佐氏を捨て某派に應援した其の態度を罵倒の余り反役場的感情に轉嫁されて行つたのであつた。その時かの二月十九日湯本座に開催された比佐派の演說會は場內立スイの余地ない大盛況であつたのであつた。その演說會に於て萩原義雄氏が前に述べた如き演說を成したのである。その論旨に多少の附加された點があつたのは余りにも世上に飛ぶ比佐不利のデマに抗爭した結果なのであつたらう。筆者の如きは其の演說を聞きデマの大きさに愕き所謂デマと稱する影ボウシに向つて挑戰した觀が强かつた者である

この萩原義雄氏の演說が聽衆に良く訴へることが出來、大好評であつたのに少なからず惡感情を持つたのは愛湯會の一部幹部であり役場當局の人達である。そし、此の反撥的現象と成つて出たのが石川町長の名によつて發表した第一回聲明書なのであつた。

この第一回聲明書の發表によつて愈々復湯問題が政爭の具に供され、片や萩原氏片や石川氏の個人的反目に變化し、石城民政部會一部の幹部も之に合流して本格的に表面化してしまつたのである。

この聲明書は當時選擧の亢奮も手傳つてをつたので一般町民は何を云ふか、チな感情が濃厚であつた結果一片の紙クズ同樣な極めて不成功に終つてしまつたのであつた。

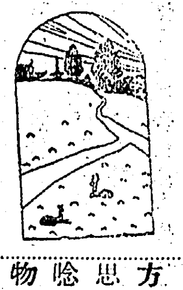
第一回聲明書は石川町長の名に依つて發表されたが當時石川町長は養父死亡の不幸にあへ原稿執筆の余暇さへ無かつたのであるからかの聲明書の筆者は石川町長で無いことは明かであり其の筆者は某々氏等であることも判然としてゐるのである。此の點讀者は良く注意して貰へたいのである。これが今後展開する湯本町紛爭の大詰の動因とも成るからである。

萩原義雄氏の演說內容と役場當局の聲明書內容とは全然反對的性質の爲めに其の眞相究明の爲めに大井川正巳氏は個人的に萩原氏に面接し訊いたのであつた。當時總選擧の亢奮いまだ覺めぬ萩原氏は少しく感情的に走り、口を極めて石川氏を惡く云つたらしいのである。當時大井川正己氏も多少個人的に町長と良からぬ感情的ギャップがあつたので勢へ萩原氏に共鳴するに至つたのである。

小說

女の罪？

南柯　鈴木要次郎



（一）

銳ひ利鎌のような、下弦の月が凄く、大地の風物に光を投げかけてゐる、ものうげな春淺き夜である。

植田町の南はずれ、鮫川のほとり。――と處女のような川原の草床に、女の白臘のようなスネがチラリ。それが瞬く間に薄衣に蔽はれたあとは鮫川の水瀨の小波が、トウ〳〵と流れる音のみである。

『淸さん、なんだか家の人に濟まない氣がするんだよ』

『どうしてそんな事を言ふんだい』

『だつて？』

女は、輕い疲勞の上半身を起すと、男の顏をヂット覗いて、ほつれ髮を兩手で掻き上げてゐた

『つくづくさう思つてよ。そりや貴方と會ふのは樂しいけれど』

『そりや亭主のあるお前とこうやつて不義してゐることは罪なもんだが、これも好き〳〵の取引です む事なんだから、いゝだらう。何もお前を獨專すると言ふのぢやないからねいお琴さん』

淸吉は女の顏へ接吻するように自分の胸へお琴を抱いてゐた

『だが何んだか近頃は英太郞も妾のことを監視してゐる樣に見えて、こわくなつてきたのよ』

『そりや、氣の持ち樣だよ大丈夫さ、こうやつてあしかけ三年たしどりの仲を、まさか天道樣もさきわしまいてイことよ』

『淸吉さん、うまい事を言つて、何んだかわからないわ』

蒼茫とした植田平野の南方へ螢の火玉が浮んだかと思ふと、鐵路がコトコトと唸り出して、下り列車が魔物のように近づいてくる。

『もう九時よ、また會いませう、だが英太郞は明日から晝番だから夜はいけないわ』

『そうか、そんなら又折をみてな』

二人は、あたりの氣配を充分に見さだめてから立ち上つた

お琴の手には、二ッ三ッ五十錢玉が握られて――

二ッの影が、春寒の夜の世界にすいとられて行つたのはそれから間もなくのことだつた。

祝倍版　俳句

中之作　臥峯

雜詠

薰風や日本晴の測候旗

滴りの岩這えぬけし夜釣哉

晝寢覺めし心空ろや閑古鳥

若葉雨建立なりて閼伽井嶽

あなかしこ綠陰に座す石佛

原稿募集

俳句、短歌、童謠
詩、コント、隨筆
小說、紀行文

右の原稿を募集します題は隨意ですが創作に限り飜譯は採りません但し紙上匿名は自由なれ共原稿の終りに住所氏名を明記すること、無名原稿は掲載致しません種類を冠頭に朱記する事掲載のものには薄謝を呈します

選者　編輯局選

宛名　平町南町二一番地
常磐新聞社
編輯局文藝部

日本國民たるの信念に生よ

第一「フランスの復興と旺盛なる精神力」

（二）

菊地高位

更に又フランスは戰爭中殆んど領土の大半をドイツのために蹂躪せられて、耕地は荒廢に歸し、都市は破壞され、その經濟力は一時全く壞滅に等しい悲慘なる狀態を呈しましたが、それも束の間であつた。驚くべきフランス國民の意氣は再び國力復興の下に示されて大戰後十年を出でずしてアメリカに次ぐところの富裕國となり、戰前にも增した繁榮ぶりを示してをります

又廟行鎭の肉彈三勇士を見よ。熾烈なる火力の下に携行せる機械では到底破壞し得ぬ鐵條網も大和民族の偉大なる精神力の前には木葉微塵であります。難攻不落と稱せられた旅順の堅壘も遂に日本の敵ではなかつたではないか。我々は此の二三の例を見ただけでも如何に精神力が偉大であるかを痛感せずにはゐられないのであります。

物質は賴むに足りないのであります、萬事を解決するものは結局銳い精神力であり、旺盛なる意氣であり又大局に即せる大抱負であるのであります。小乘的感情に陷らずして、大乘的大精神に立つ所にあるのであります。人口問題も重要でありませう、食糧問題も輕視する事は出來ないでせう國際問題固よりであります併しながら、それ等の一々に就いて、無暗に憂慮し恐怖する事は避けねばなりません。日本國民は今一段と高所に立つて自己の進むべき方向を考察する必要があると思ふ。斯く致しまして自己本來の使命と任務を確認するとき總ての問題は自ら氷解するのであります。

眼科一般
小名濱眼科醫院
小名濱町

外科　內科
花柳病科
レントゲン科
入院隨意
小名濱町中島
草野醫院
電話一七三番

銘酒は……
清世界
發賣元　清水屋本店
小名濱町電話六番

親切第一　KS
船舶用電氣
各種發電機
各種蓄電池
捲替修理
電機器具
各種電球
販賣
磐城小名濱町
スマヤ電氣部
ケーエス商會
店主　小濱敬太郎
電話一五九番

外科專門・レントゲン科
上田外科醫院
病室の設備有り入院應需
平町南町

漆器と家具は
平町二丁目
和
和久井屋
電四〇五番

祝甲
造花を御求めになる時は是非技術有る新らしき品を御買求め願ひます
平四丁目局通り
電話五五〇番
造花問屋
山光堂
造花博士　花信

內科小兒科
耳鼻科外科
花柳病科
小名濱町役場向
宮津醫院
電話一四二番

口腔外科齒科一般
池部齒科醫院
江名町

各種ゴム靴、ゴム合羽、ゴム前掛
革靴、運動靴、草履製造
たぬき印
三島印
ゴム工業所特約店
小島履物店
福島縣小名濱町

優秀！美術的印刷の御用命は
長瀨印刷所
小名濱
磐城座入口

齒科一般口腔外科
木田齒科醫院
小名濱町電話一〇五番

御旅館
御料理
吉田屋本館
別館
小名濱町
電話十四番

新裝なつた殿堂
カフェー浮世
整つたサービス孃の陣容
小名濱町
辨天橋町

齒科一般
織田齒科醫院
平町南町

醬油釀造家の革命的一大福音
合理的經濟的アミノ酸製造原料
『アルソ撒豆粕』
滿洲大豆製造株式會社特約代理店
日本食料工業株式會社
小名濱出張所
委細は同出張所へ御訪合せ願ひたし

平町七丁目
諸機械並
一般鑄物
タービンポンプ
山田鐵工所
山田親敬
電話七十二番

材料も庖丁も不遜の自慢
雅味、尊重の名食器
御家族連に御小宴に是非
新味
割烹
御酒の家
大盃
小名濱町上横町
試食としての御定食
洋食　御酒付　六十錢

內科
小兒科
花柳病科……理學的療法科
(新設)
江名濱醫院
院長　管野健
江名町折戶埋立地內

柄合の撰擇は
―商品豐富な店
西村屋號　通稱タイモン
江尻呉服店
小名濱町横町
電話二十四番

自動車の御用命
貸切の御用は電話一一六番へ
湯本驛前は
矢内自動車部
乘合は平―湯本・湯本―川邊
電話一一六番

株式會社
湯本無盡
融資―貯蓄
電話四七番

產婦人科專門
井坂醫院
小川田町　電話五九番